

M A T O I

ま と い お お い た

O I T A



Vol. 1

つながる 人の輪 つなげる 未来へ

Contents

- 刊行にあたり
- <特集>実は私も消防団員です
- 消防団Q&A
- ぼうさいコラム
「地震、その時あなたは?」
- 消防団NEWS
～消防団ビジョンを作成しました

刊行にあたり



大分市消防団長
嵯峨 健司

大分市消防団では、発刊当時、市民の皆様からご好評をいただいております。また、広報誌「まとい」を、装い新たに「MATTOI OITA」として復刊しました。今後は本誌を通じ、随時消防団の取組みをご紹介していきたいと考えております。

近年、発生が危惧されている南海トラフ巨大地震をはじめとした大規模な自然災害の脅威が迫る中、被害を少しでも軽減するためには、地域ごとの防災力強化が欠かせません。

安全で安心して暮らせる大分市を目指すために、市民の皆様のご理解とご協力をいただけますようお願い申し上げます。刊行にあたってのご挨拶とさせていただきます。

桃園分団 部長

三宮 邦毅 さん（入団13年目）
バス会社勤務



子育ては親の背中を見せることが大事です。私が地域参画をすることで、子どもも地域で生きることの大切さを知り、社会性を身に付けていくものだと思います。また、私が消防団活動することで、家族の防災意識も高まり、他県で暮らす娘が学生消防団として活躍し始めたこともうれしく感じています。



女性分団 団員

熊谷 絵美 さん（入団12年目）
公務員



職場の同僚に誘われて入団しました。消防団は、災害対応が主な役割かと思いましたが、防火防災の啓発活動や救急講習の普及員、出初式のアナウンスなど取組みが幅広いことに驚いています。また、まわりの団員さんは責任感ある立派な方々ばかりで、そういった方々と知り合えたことや、いろいろな経験をさせてもらうことで自分の世界が広がりました。



過去に管内で発生した山火事で、3日間にわたる消火活動を経験し、大規模な火災から地域を守るためには消防団が欠かせないことを確信しました。最近では火災経験の少ない団員も増えていきますので、消防局と連携しながら実践的な訓練を重ね、後進の育成を行うことで、住民が安心して暮らせる地域を作っていきたいと考えています。

第6方面隊（坂ノ市）隊長

河野 裕 さん（入団32年目）
屋根工事業



実は私も消防団員です

幅広い世代から地域を愛する人々が集い、地域を守るために活動する消防団は、コミュニティの核として、地域を活性化できる一面も持っています。このような組織は、現代社会において貴重な存在だと思います。私はそんな消防団が大好きですし、これからも大切にしたいです。



野津原中部分団 副分団長

中村 秀一 さん（入団15年目）
畜産業



消防団は年配の方々が多いイメージでしたが、同世代の方が多く、気軽に馴染むことができ、日頃の仕事や友人関係だけでは築くことのできない頼れる先輩もできました。また、現場活動を行った際に地元の方から頂いた感謝の言葉や、息子から「パパの仕事はお菓子屋さんと消防屋さんでカッコイイ」と言われたことは今でも胸に残っています。

戸次分団 団員

坂本 雅俊 さん（入団7年目）
菓子製造・営業



かた昼
消防団員が
質問！

消防団 Q & A

Q. 消防団ってなに？

A. 自分の暮らす地域を災害から守りたい人たちでつくられる消防組織だよ。消防署の消防士とちがって、みんな他の仕事をしながらやっているんだ。ちなみに江戸時代から火消しと呼ばれる人たちが地域を守ってきたんだよ、消防団の大先輩だね。

Q. 消防団員は何人いるの？

A. 平成元年に日本中で100万人いたんだけど、今では85万人に減っているんだ。大きな災害のとき心配だね。大分市では2200人近くの人が、地域を守っているんだよ。

Q. 消防団になりたい！

A. 近くに住んでいる消防団員か消防署に相談してね。でも18歳にならないと入れないんだ、ごめんね。



※かた昼消防団とは

小中学生を対象に消防団員が防災に関する体験教育を行う取り組みです。将来の防災リーダー育成だけでなく、自主防災組織や婦人会なども参加することで、防災の基本である顔の見える関係ができ、地域防災力が強化されます。

消防団について

もっと知りたい方は

CHECK!



地震、その時あなたは？

第1方面隊 副隊長
牧 優治



「地震」この言葉を聞いて皆さんが想像するのは、震災と呼ばれる大規模なものではないでしょうか。

今回は、発生頻度の高い中規模な地震に対して皆さんがどのような行動を行っているか考えてみませんか。

例えば、家族全員が家でくつろいでいる時間帯に震度4の地震が発生したときの行動を想像してみましよう。「あ、地震だ」「テーブルの下に隠れ揺れをやり過ぎします」「震度はいくつな、震源はどこっち」「よう揺れたな、大丈夫かえ」「まあ、そ

げえねえでよかつたなえ」…ひと段落してしまい今回の地震は終了です。テーブルに隠れたり、家族の安否を確認するまでは良くできた行動でした。

しかし、揺れが収まってから家の周囲（瓦の落下・外壁の破損・ガス臭など）を確認していますか。

これらは、連続した揺れに備え、避難を判断する基準にもなりますので重要なことです。

さらに、自宅周辺はどうでしょう。煙や臭いなど火災の兆候はないでしょうか。隣近所に家具の倒壊で助けを求めている人はいませんか。

このように、自分と家族を守る一連の行動のあとに、隣近所に声掛けをする行動を心掛けることが、防災の基礎です。

「声掛けという少しの気遣い」これが、地域全体に広がれば、いつかやってくる大規模な震災による被害を軽減することに繋がります。

あなたの一言が地域を守ります。まずはお隣と「もしもの時」について話をしてみませんか。

消防団



NEWS

実現します！未来の消防団

昨年度より策定作業を行っていた、「大分市消防団ビジョン」が多くの皆様のご尽力をいただき、このたび完成しました。消防団ビジョンは、大分市消防団の7年後の将来像と達成するための指針をまとめた計画です。

地域防災力を強化するためには、「住民一人ひとりの防災活動（自助）」「消防団や自主防災組織など地域における多様な主体が行う防災活動（共助）」「行政が行う防災活動（公助）」が適切に役割分担して、相互に連携することが必要です。

消防団ビジョンは、

市ホームページや公民館でご覧になれますので、市民の皆様にも広く知っていただき、安全で安心して暮らせる地域を作るために、消防団の目指す未来へのご協力をお願いします。



地域のためなら、例え火の中 水の中 あなたのそばに消防団

大分市消防団員募集中！

お問い合わせは 大分市消防局総務課 TEL: 097-532-2188 または地域の消防団員まで